

酒々井町郷土研究会会報

第91号

平成11年1月1日発行

酒々井町郷土研究会

広報部

「年頭にあたり」

酒々井町長 綿貫登喜夫

新年明けましておめでとーうござい
ます。

皆様におかれましては、輝かしい
初春をお迎えのことと、心からお喜
び申し上げます。

いよいよ二十一世紀まで残すとい
ろ一年となり、時代は新しいステー
ジに向けて大きく胎動し始めており
ます。同時に、私たちの町「酒々
井」も、歴史と伝統を礎に着実な歩
みを続け、本年は町制施行一〇〇周
年という輝かしい年を迎えました。
このような時機、町の美しい豊か
な自然を守りながら、「環境」「都
市」「生活」「文化」が相互にバラ
ンスを保ちながら、「調和」の中で
発展し、町民の皆様が「酒々井町に

住んでよかった、酒々井町にこれか
らも永く住みたい」と実感できる「
ふるさと・酒々井づくり」が求めら
れております。

迎春



平成十一年元旦

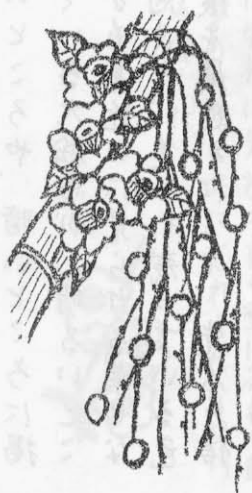
このため、町では、二万有余の町
民の皆様と力を合わせ、町の発展を
より確かなものとして新世紀に引き
継いでいきたいと、「第四次酒々井
町総合計画」を進めております。こ
の計画では、広く町民皆様の参加を
得て、町民のためのまちづくりを進
めることを基本理念に、町が目指し
ていく将来都市像を「人と自然と文
化が奏でるしあわせハーモニー・酒

々井」とし、幸せを感じられる町、
いつまでも住んでいたいと思える町、
そして、「ふるさと」として愛着を
持つことができ誇れる町を目指して
おり、この創造に向けたまちづくり
を進めることが、私に課せられた大
きな責務であります。

あらためて日頃のご労苦に対しま
して、深く敬意と感謝を申し上げます
すとともに、皆様の更なるご活躍に
大きく期待申し上げますのでありま
す。

併せまして、私ごとで恐縮ですが、
町長に就任して二年目の春を皆様と
ともに迎えることができました。こ
れもひとえに皆様のお陰と重ねて感
謝申し上げます。どうか、今後とも変わ
らぬお力添えを賜りますようお願い
申し上げます。

終わりに臨み、酒々井町郷土研究
会の益々のご発展と会員皆様のご多
幸を祈念申し上げます。年頭のご挨拶と
いたします。



新年を迎えて

郷土研究会長 会田 秀雄

明けましておめでとうございます。昨年は会員皆様のお陰で年間行事もつつがなく終了することが出来ました。特に永年の懸案でありました「酒々井町の絵馬と信仰」と題しての文化展では、町内外の多くの方々の御来場をいただき、盛会裡に終わり大変な喜びでした。これも役員諸氏の一方ならぬ努力の賜と深く感謝申し上げます。

さて、現今の政治、経済、社会、いずれをとっても不安材料ばかりです。最近では若年層におけるマリファナ遊びや暴力、暴走、殺人事件が全国各地で激増している状況です。憂うべき現象ではありませんか!! 物質的な豊かさの中で昏迷をきわめる現代社会に於いて、老いも若きも心の安らぎ、豊かさが必要ではないでしょうか。

ともあれ郷土研究会は皆様のご協力のもと、楽しみながら生きることが、挑戦の連続と思つて二十一世紀

に向かつて皆様と共に前進して行きたいと願つております。終わりにのぞみ、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、ご挨拶いたします。



絵馬展に思う

高木 正浩

酒々井町の神社やお寺に奉納されている絵馬は、郷土研究会の調べによれば、合計二七枚で千葉県八〇市町村の中で六位にあたる。酒々井町の古い絵馬を見て信仰の深い祖先の心の歴史にふれていただきたいとの郷土研究会の願いが実つて、十月下旬に立派な絵馬展が開かれた。

つも高いところや、暗いところに掲げられている大絵馬が、明るいところでもしかかも身近かに見られる幸せな機会に恵まれ、美しく残っている色彩や墨痕を間近かにして、先人の信仰の深さを目のあたりに見る思いであつた。絵馬といえ、お願い事のある人が奉納するものぐらゐの認識しかなかった私は、当日の郷土研究会の解説から沢山の事を教えていただいた。奈良時代初期には奉納の習俗があつたと考えられる絵馬は、生きた馬に代つて土製の馬形(土馬)になり、さらに手軽な板絵(絵馬)になり江戸時代に大衆化した。白馬は日乞い、「黒馬」は雨乞いなど絵解きの楽しさも教わり、吊りかけ型の小絵馬がら伝わって来るさまざまな願いや思いを切実に感じながら会場を後にした。



水元公園と柴又界限散策

亀井 香久乃

我等が寅さんの町、柴又及び水元公園行きは、降らず照らずの好日和であった。先ず水元公園にて降車し、太公望の居並ぶ背後を通りすぎ、公園入口にて一服し、園内を半時間ほど散策した。大規模な公園に植生されていく樹木は、如何にも伸びられ植物冥利なり、これに比べて庭木の運命は、伸びれば余儀なく切られ誠に哀れである。そんな暫しの感傷を後に次なる「縛られ地蔵」へと進んだ。

業平山南蔵院の寺名は、平安初期の歌人、在原業平に因む。縛られ地蔵前に立てば、さぞや重からう程に荒縄でくぐられ、如何に世人の多苦多重から逃れんための祈願人の多さに驚く。八代將軍吉宗時代に、名奉行大岡越前守による名裁きの逸話を持つ此の地蔵も、現代の科学捜査を不可欠とする社会では隔世の感である。

またバスにて柴又に向かう。門前町は何処も同様だが、此処は草だんごが有名で、各人お土産に求めたようだ。「帝釈天」に参詣後、隣接の彫刻ギャラリーを見学した。經典の内容を解りやすく、樺の甲板に刻んだ名工諸氏の技は七十有余年現在、細部に至る木脈が浮き出て、当時の作者がノミの切っ先に心靈を注いだ姿を彷彿させる。

最後の「寅さん記念館」は、小高い山に一旦登り、寸時、江戸川の雄大な流れと河川敷を深呼吸と共に眺め、エレベーターで一階の館内に入る。歴代のマドンナや撮影風景、寅さんの全てが紹介されている。役者渥美清氏の人となりを知る。愛用のトランクと雪駄の模造に別れを告げ帰路についた。

心に残る川越

村山 和子

郷土研究会に平成十年入会させて戴きました。会の活躍を拝見し行事案内の欄に川越方面の見学が載ってました。川越は前から行ってみたいと思っていたので早速申し込みました。当日会費を納める段になり、財布を忘れていた。

に気がつきました。どうしよう、どなたにお借りしよう、見渡すと地獄で仏とほのこと、たったお一人知った方がおられその方に拝借しました。人の情が身に滲みてそんな思いで訪れた川越は私には格別でした。

初めに日枝神社に行きましたが想像していたより簡素で小じんまりとしたお社でした。喜多院は広々とした境内で本堂の中まで見せて戴き、厳かな気持ちになりました。多宝塔の見方、五百羅漢では、お釈迦様と阿弥陀様の見分け方、それに、仏様の顔で年代が解るとか、薬師如来様は薬指を見れば解るとか、細かく教えて戴きました。今まで何気なく見すごしてましたので心に深く残りました。

次に川越城跡の本丸御殿に行きました。本丸の御殿はまさに御殿マ、みことなお庭に、ヒンヤリとした空気が、昔にタイムスリップした様でした。時間があまりありませんでしたが、川越に来て蔵造りの商家を見ないのも心残りと思いつつきました。時の鐘も見る事が出来、お菓子横丁にも寄りました。資料館では川越の歴史を知り、昼食になりました。

最後に見学した訪れた平林寺は、広々とした静かな境内、清々と掃き清められていて、本心に心が洗われました。紅葉にはまだでしたが、紅葉時が想像できる佇いでした。今回は皆様に気持ち良く受け入れて戴き、財布の一件と共に忘れられない川越になりました。



野草観察会に参加して

浜口信義

九月二十五日の野草観察会は公民館からバスで一時間三〇分の所にあるユートピア笠森を基点として行われました。当日は幸いにも朝から天候に恵まれ、気温も三〇度を越える暑さとなりましたが、木陰は秋風が気持ちよく、絶好の観察日和となりました。

まず、ユートピア笠森の向かいの坂道を登り展望台に立つと上総丘陵が三六〇度見渡せ、このすばらしい景色を十分に楽しんだ後、ユートピア笠森へ向かいながら観察会が始まりました。初めて参加した私は野草について全く知識がなく、亀井先生を始め参加されている皆様に教えて頂きながら植物の採取と名前をメモするのにならぬようになりました。ゲンノシヨウコを見たとき子供の頃お茶代わりに毎日飲まされたのを思い出し感慨無量になりました。また散歩の途中でよく見かける小さな紫色の花をつけている草はツユクサと知りま

した。オトギリソウの名前の由来はこの植物を秘薬としていた鷹飼いが秘密を漏らした弟を切ったと言う話から付けられたとのこと。この小さな黄色の花を付ける野草にも悲しいいわれがあるものだと思います。このほか、オニドコロ、キツネノマゴなど初めて聞くおもしろい名前がありました。これら野草の名前はどのようにして、何時だれが付けたのかと思ひ、なかなかユーマのある人物だと感心しました。

今日採取した野草は二二種になり帰宅後、採取植物を図鑑で調べ直すことになりました。今まで何げなく散歩していましたが、観察会後は道端に生えている植物に目がいき、図鑑を見る時間が多くなり楽しみが一つ増えました。

お知らせします

九月二十五日、ユートピア笠森周辺観察会がわからなかつた木は次の通りです。赤きははじめに見た大きな木はシラキ(とうだい科)です。この名前は材質が白いのを白木です。斜面にあったヤナギはイヌコリヤナギ(やなぎ科)でした。昔は行李の素材に使ったようです。

亀井番久乃

郷土研日誌 H10.10月~12月

月日	内容	出席者
10/3(土)	史談会(屋外研修)	19
10/5(月)	絵馬調査	10
10/2(月)	御成街道を探訪(久保実樹方面)4回	19
10/25(日)	絵馬展準備(絵馬搬入)	20
10/27(火)	生涯学習フェスティバル文化展	
10/31(土)	「酒々井の絵馬と信仰」	380
1/6(金)	日帰り見学会「川越方面」	39
1/19(水)	会報 編集会議	6
1/23(金)	研修部会	9
1/28(水)	部長会議	12
1/2(水)	名勝探訪(相方方面)	19
1/5(土)	史談会「印旛郡誌・酒々井町誌を讀む」②	21
1/18(金)	運営委員会	20
1/23(金)	編集会議 校正・印刷	6
1/26(月)	会報発送	21

会計報告

川越方面
 参加者 39名
 会費 6,500円
 収入 6,500 × 39 = 253,500
 支出
 八街観光 209,965
 拝観料 25,350
 諸雑費 11,450
 246,765
 残金 6,735円
 郷土研へ繰入れ

あとがき

あはれ台風や異常な暑さなどで世界中が大変な思いをした平成十年道探訪、八月には、国立歴史民俗博物館副館長、白石先生による郷土史講座、生涯学習フェスティバルの文化展では、酒々井の絵馬と信仰など、沢山の皆様に見て聞いていただき、新年を迎えることができました。又今年も郷土研究会の楽しい行事などをお知らせしながら、皆様と御一緒したいと願っております。どうぞよろしくおねがい申し上げます。

見学

案内



日帰り見学会

南足柄・箱根方面

3月26日 (金) (雨天決行)
最乗寺 (道了尊)

曹洞宗の寺。福井永平寺、鶴見総持寺に次ぐ寺格を誇っている。山号は大雄山。応永元年(一三九四)了庵慧明禅師の創建で、山内守護として道了大薩埵を祀っているところから俗に「道了尊」と呼ばれている。道了は了庵の弟子で妙覚と称し、当寺を開くにあたって怪力をもって土木工事を行い、禅師の化益を補佐。寺が完成すると「永久にこの寺を守るであろう」と言い残し、大きな天狗となつて飛び去つたという言い伝えがあり、天狗の面が飾つてある。興福院曹洞宗の寺。多くの石佛像があり、

石佛は明治の廃佛毀釈の時、箱根権現の別当金剛王院から移されたもので近くには賽の河原がある。

曾我兄弟の墓

国道一号線沿いに三基の五輪塔が並んでいる。その中に、ぴったり寄り添っている二基が兄弟の墓で国指定の重要文化財になっている。

名勝探訪

鎌倉方面

(二階堂方面)

1月17日 (日)

雨天代替1月31日 (日)

今年も初詣では鎌倉へ行きます。シリーズ四回目の今回は二階堂方面です。この辺は鎌倉時代、役所が多く集まっていた所です。

瑞泉寺では黄色や白の水仙が私たちを迎えてくれることでしょう。また、悲劇の皇子・護良親王が幽閉されていた土牢、鎌倉幕府より古い神社鎌倉宮、学問の神様菅原道真公が祭神となつている桂木天神にお参りし、最後に鎌倉幕府の創立者で千葉氏とも縁の深い源頼朝公の墓などを

見学して、バスで鎌倉駅へ。ここで解散しますので、時間のある方は、辺りの散策でもいかがでしょうか。

御成街道を探訪

(長沼方面)

2月8日 (月)

雨天代替2月15日 (月)

第五回御成街道探訪は実柵から長沼の駒形観音堂(大佛)まで歩きます。習志野の原の中、一直線に大きな起伏の地形が道を空の上に突き上げ深い谷底に滑り降りるようになり、谷を渡る横風に吹き飛ばされそうです。三嶋神社、稲荷神社、福寿院、花見川を過ぎ、東関道と十六号線を前に見ながら、イトーヨーカドーまで歩き昼食一服します。そして少々後戻りして御滝神社、今回のハイライトで大小の百枚もの石絵馬が境内に奉納されている駒形奥の院に参り、島田家の長屋門、駒形観音堂・露座の大佛を拝します。バスで四街道駅まで行き解散します。

郷土研行事案内

平成11年1月~3月

	1月	2月	3月
史談会	休講	6日(土) 13:30 会議室 「印旛郡誌酒々井町誌を学ぶ」⑧ 講師：高橋健一先生	6日(土) 13:30 会議室 「印旛郡誌酒々井町誌を学ぶ」⑨ 講師：高橋健一先生
名勝探訪	1月17日(日) 『鎌倉方面初詣で』 JR酒々井駅 7:00 集合 雨天代替 1月31日(日) 費用 ・ホリデーパス 2040円 拝観料・バス代多少かかります 場合によりコース変更あり 弁当、飲み物持参下さい JR酒々井駅——鎌倉駅——大塔の宮—— 行程> 瑞泉寺——鎌倉宮——土牢——荏柄天神— —源頼朝の墓——鎌倉駅——JR酒々井駅		
御成街道の探訪	2月8日(月) 『長沼方面』 京成酒々井駅 8:20 集合 雨天代替 2月15日(月) 場合によりコース変更あり 京成酒々井駅——実籾駅——三嶋神社—— 稲荷神社——福寿院——花見川—— 一里塚跡(高速)——昼食(イトーヨーカドー)—— 行程> 御滝神社——駒形奥の院(馬頭観音)・石絵馬100枚余 ——島田家(長屋門)——駒形観音堂(大佛)— —JR四街道駅——JR酒々井駅		
野草の会	2月20日(土) 『七草粥を食べる会』 会場 中央公民館講堂 受付 11:30 会費 700円 会食開始 12:00 (手伝いできる方は9:00迄に調理室において下さい) 定員 70名 申込受付 1月24日(日) 12:30 (公民館ロビーにて)		
日帰り見学会	3月26日(金) 『南足柄・箱根方面』 中央公民館 6:00 出発 会費 6500円 定員 45名 18:10着(予定) 申込受付 1月24日(日) 12:30~ 公民館ロビー キャンセル 実施日3日前までに 会田秀雄宅へ(☎) 公民館—湾岸幕張PA—大黒PA—ベイブリッジ— 狩場—横浜IC—大井松田IC—大雄山最乗寺— 行程> 小田原—箱根新道—関所跡資料館(昼食)—興福院 —曾我兄弟の墓・石佛群—箱根新道—小田原西IC— 厚木IC—海老名SA—レインボーブリッジ—酒々井		
第23回総会	1月24日(日) 中央公民館講堂 午後1:30開会 受付 12:30から受付(公民館ロビー) 会費 年 1000円 議題 <ul style="list-style-type: none"> ・平成10年度事業報告及び決算の承認について ・平成11年度事業計画案及び予算案について ・その他 (同時に七草粥と日帰り見学会の申し込みを受け付けます) 総会終了後 御成街道のピテャブを鑑賞していただきます(約45分間)		